

過湿で地力の低い圃場ではだか麦 ‘ハルヒメボシ’ の一発施肥体系

農林水産研究所

過湿気味で、地力の低い圃場において‘ハルヒメボシ’の一発施肥体系での栽培を行う場合、**排水対策を徹底**した上で**窒素施用量を追肥重点の分施肥体系から15%程度増やす**ことで追肥重点施肥と同等の収量が得られます。

明きよ、畝間は必ず水尻までつなげる。

◎排水対策の4点セット！



① 額縁明きよ

表面排水を促進



② 弾丸暗きよ (密施工)

浸透水を排除



③ 事前の荒起こし (チゼル等)

土壌の乾燥促進、降雨時も速やかに排水



④ 畝立て同時播種

作土内に水が溜まりにくく、出芽、生育が安定

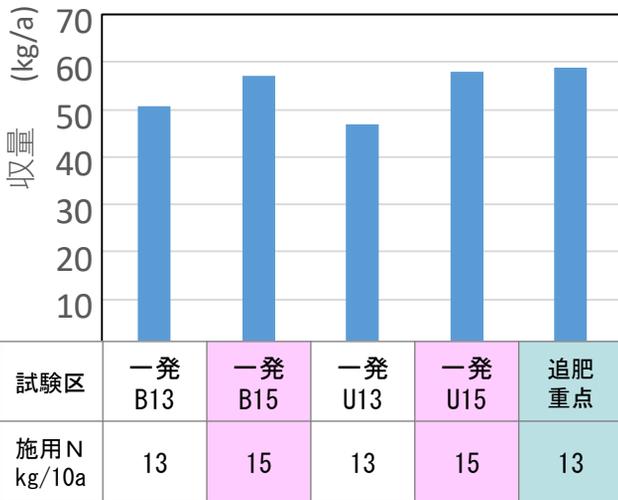


図1 過湿で地力の低い圃場における一発肥料による‘ハルヒメボシ’の収量

一発 B (N(%)速効性 1.9、エムコートL20 6.7、S30 6.2、S20 5.7)
 一発 U (N(%)速効性 9、ユーコート30 9)
 追肥重点は、基肥 高度化成 (14-10-13)、追肥 NK化成 (14-2-16)
 4 反復
 播種日2020年11月16日、麦踏 4回

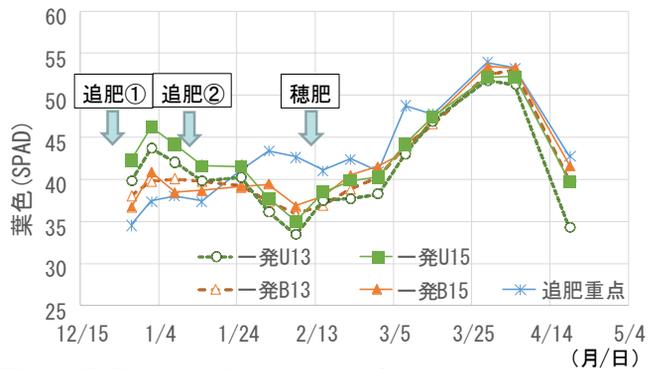


図2 一発肥料による‘ハルヒメボシ’の葉色の推移 (過湿で地力の低い圃場)

一発肥料は穂肥時期前に葉色が低下するが、その後は回復する。

※図中の矢印は追肥重点区の施肥を指す。

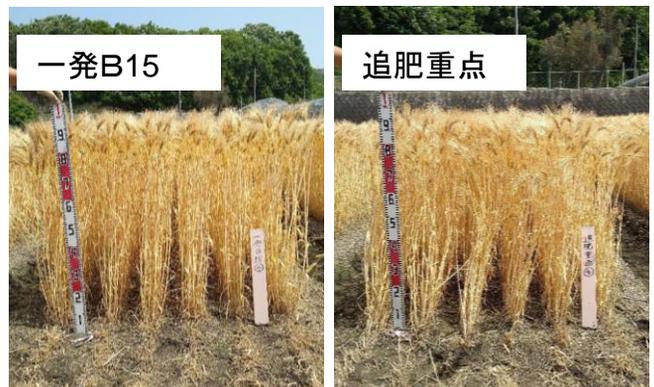


図3 成熟期の様子